

# 第 29 回建設業経理事務士検定試験

## 3 級試験問題

### 注 意 事 項

1. 解答は、解答用紙に指定された解答欄内に記入してください。解答欄外に記入されているものは採点しません。
2. 金額の記入にあたっては、以下のとおりとし、1ますごとに数字を記入してください。

|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
|   |   |   |   |   |   |   |   |   |
| ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ | ↑ |
| 一 | 千 | 百 | 十 | 一 | 千 | 百 | 十 | 一 |
| 億 | 万 | 万 | 万 | 万 | の | の | の | の |
| の | の | の | の | の | 位 | 位 | 位 | 位 |
| 位 | 位 | 位 | 位 | 位 |   |   |   |   |

3. 解答は、指定したワケ内に明瞭に記入してください。判読し難い文字が記入されている場合、その解答欄については採点しません。
4. 設問中の各取引について、消費税は一切考慮しないこととします。
5. 解答用紙には、氏名・受験番号シール貼付欄が2カ所あります。2カ所とも、氏名はカタカナで記入し、受験番号は受験票に付いている受験番号シールを貼ってください。なお、受験番号シールがないときは、自筆で受験番号を記入してください。  
(氏名・受験番号が正しく表示されていないと、採点できない場合があります。)

〔第1問〕 群馬工務店の次の取引について、仕訳を示しなさい。使用する勘定科目は下記の〈勘定科目群〉から選び、その記号（A～U）と勘定科目を書くこと。なお、解答は次に掲げた（例）に対する解答例にならって記入しなさい。（20点）

（例） 現金¥100,000を当座預金に預け入れた。

- (1) 有価証券（帳簿価額¥350,000）を売却し、その代金¥365,000を現金で受け取った。
- (2) 下請業者より作業が完了した旨の報告を受け、代金のうち¥660,000は手持ちの他人振出しの約束手形を裏書譲渡し、残額¥540,000は翌月払いとした。
- (3) 建設機械を購入し、代金は小切手¥398,000を振り出して支払った。当座預金の残高は¥225,000であり、取引銀行とは当座借越契約（借越限度¥1,000,000）を結んでいる。なお、当座預金勘定とは別に当座借越勘定を設けている。
- (4) 工事が完成したので発注者に引き渡し、前受金¥500,000を差し引いた残額¥745,000を小切手で受け取った。
- (5) 決算に際して、当期純利益¥620,000を資本金勘定に振り替えた。

〈勘定科目群〉

|           |           |           |        |            |
|-----------|-----------|-----------|--------|------------|
| A 現金      | B 当座預金    | C 当座借越    | D 受取手形 | E 支払手形     |
| F 資本金     | G 工事未払金   | H 未成工事受入金 | J 未払金  | K 完成工事未収入金 |
| L 機械装置    | M 完成工事高   | N 外注費     | P 受取利息 | Q 支払利息     |
| R 有価証券売却益 | S 有価証券売却損 | T 有価証券    | U 損益   |            |

〔第2問〕 下記の〈資料〉に基づき、次の設問の金額を計算しなさい。（12点）

- 問1 前月末における未成工事支出金勘定の残高
- 問2 当月発生工事原価のうち労務費の額
- 問3 当月完成工事原価のうち外注費の額
- 問4 当月完成工事原価

〈資料〉

1. 平成×9年12月の工事原価計算表

工事原価計算表

平成×9年12月

（単位：円）

| 摘 要   | A工事     |         | B工事     |         | C工事     | 合 計       |
|-------|---------|---------|---------|---------|---------|-----------|
|       | 前月末残高   | 当月発生高   | 前月末残高   | 当月発生高   | 当月発生高   |           |
| 材 料 費 | 230,900 | 123,700 | ×××     | 69,000  | ×××     | 770,500   |
| 労 務 費 | 153,400 | ×××     | 16,800  | ×××     | 187,600 | 522,100   |
| 外 注 費 | 98,300  | 54,700  | 28,300  | ×××     | 164,300 | ×××       |
| 経 費   | ×××     | 46,900  | ×××     | 24,600  | 76,900  | 253,400   |
| 合 計   | 552,200 | 345,900 | 129,400 | 195,700 | ×××     | 1,950,000 |

2. 当月中にA工事とB工事は完成し、C工事は当月末現在未完成である。

【第3問】 次の<資料1>及び<資料2>に基づき、解答用紙の合計残高試算表(平成×年3月31日現在)を完成しなさい。(30点)

<資料1>

合計試算表

平成×年3月20日 (単位:円)

| 借方         | 勘定科目       | 貸方         |
|------------|------------|------------|
| 2,036,000  | 現金         | 1,398,000  |
| 3,623,000  | 当座預金       | 2,561,000  |
| 1,886,000  | 受取手形       | 690,000    |
| 3,493,000  | 完成工事未収入金   | 1,793,000  |
| 1,346,000  | 材料         | 540,000    |
| 840,000    | 機械装置       |            |
| 336,000    | 備品         |            |
| 689,000    | 支払手形       | 1,367,000  |
| 1,380,000  | 工事未払金      | 2,380,000  |
| 624,000    | 借入金        | 960,000    |
| 1,312,000  | 未成工事受入金    | 2,314,000  |
|            | 資本金        | 2,000,000  |
|            | 完成工事高      | 5,194,000  |
| 1,227,000  | 材料費        |            |
| 901,000    | 労務費        |            |
| 692,000    | 外注費        |            |
| 307,000    | 経費         |            |
| 508,000    | 販売費及び一般管理費 |            |
|            | 雑収入        | 17,000     |
| 14,000     | 支払利息       |            |
| 21,214,000 |            | 21,214,000 |

<資料2> 平成×年3月21日から31日までの取引

- 21日 工事契約が成立し、前受金¥450,000を小切手で受け取った。
- 22日 材料¥320,000を掛けで購入し、本社倉庫に搬入した。(下記注参照)
- 23日 現金¥100,000を当座預金から引き出した。
- 24日 現場事務所の家賃¥125,000を小切手を振り出して支払った。
- 25日 当社振出しの約束手形¥260,000の期日が到来し、当座預金から引き落とされた。
- 〃 本社事務員の給料¥120,000を現金で支払った。
- 26日 材料¥250,000を本社倉庫より現場に搬入した。
- 27日 外注先の下請業者から作業完了の報告があり、外注代金¥156,000の請求を受けた。
- 28日 取立て依頼中の約束手形¥630,000の期日が到来し、当座預金に振り込まれた。
- 29日 現場作業員の賃金¥80,000を現金で支払った。
- 30日 工事が完成し、引き渡した。工事代金¥900,000のうち前受金¥250,000を差し引いた残額を約束手形で受け取った。
- 31日 現場の材料の一部に未使用分¥12,000が生じたため、現場より倉庫に搬入した。

注) 材料は購入のつど材料勘定に記入し、現場搬入の際に材料費勘定に振り替える。

【第4問】 次の文の  の中に入る適当な用語を下記の<用語群>から選び、その記号(ア～ス)を解答用紙の所定の欄に記入しなさい。(10点)

- (1) 材料の  a は、購入代価に  b を加算して決定される。
- (2) 大陸式決算法では、  c 勘定と  d 勘定の2つが集合勘定として設定される。
- (3) 市場価格のある株式及び社債のうち、売買目的で保有するものは、  e 勘定で処理する。

<用語群>

- |        |        |        |         |      |
|--------|--------|--------|---------|------|
| ア 有価証券 | イ 負債   | ウ 損益   | エ 付随費用  | オ 収益 |
| カ 取得原価 | キ 残存価額 | ク 受取手形 | コ 完成工事高 | サ 費用 |
| シ 残高   | ス 消費数量 |        |         |      |

【第5問】 次の<決算整理事項等>によって、解答用紙の精算表を完成しなさい。なお、工事原価は未成工事支出金勘定を経由して処理する方法によっている。 (28点)

<決算整理事項等>

- (1) 受取手形と完成工事未収入金の合計額に対して2%の貸倒引当金を設定する。(差額補充法)
- (2) 有価証券の時価は¥138,000である。評価損を計上する。
- (3) 機械装置(工事用)について¥112,000、備品(一般管理用)について¥24,000の減価償却費を計上する。
- (4) 貸付金に対する利息のうち、当期に対応する金額¥2,500が未収である。なお、この利息は次期に受け取る契約となっている。
- (5) 販売費及び一般管理費には、次期に対応する保険料¥3,000が含まれている。
- (6) 未成工事支出金の次期繰越額は¥676,000である。